

東久留米市環境審議会 会議録

1. 会議名 平成 29 年度第 3 回東久留米市環境審議会
2. 日 時 平成 30 年 2 月 5 日（月） 午後 1 時 00 分から午後 3 時 00 分
3. 場 所 東久留米市役所 4 階 庁議室
4. 出席委員氏名（敬称略） 杉原弘恭（会長）、水戸部啓一（職務代理者）、大山久仁夫、重藤さわ子、猪股良子、齋藤朋矢、三間優子、大坪満、濱中冬行、宗 友之（以上 10 名）
5. 欠席委員氏名（敬称略） 宮川正孝、牛谷昌弘
6. 事務局職員名 山下環境安全部長、小泉環境政策課長、小平計画調整係長、浅海緑と公園係長、齊藤計画調整係主事
7. コンサルタント会社（アジア航測株式会社） 深見幹朗、藤原真太郎
8. 傍聴人 なし
9. 次第
 - (1) 議 題
 - ①平成 29 年度第 2 回環境審議会会議録の確認について（資料 1）
 - ②東久留米市第二次緑の基本計画中間見直しについて（資料 2）（資料 2-1）（資料 2-2）
 - (2) その他
 - ※環境政策課からの報告
 - ・東久留米市第三次地球温暖化対策実行計画事務事業編（案）について（資料 3）
 - (3) 市長への答申
 - （東久留米市第二次緑の基本計画中間見直し）

10. 配布資料

- 平成 29 年度第 2 回環境審議会会議録（案） …資料 1
- 第二次緑の基本計画・生物多様性地域戦略（案） …資料 2
- 緑の基本計画パブリックコメント意見と対応（案） …資料 2-1
- 答申書（案） …資料 2-2
- 東久留米市第三次地球温暖化対策実行計画事務事業編（素案） …資料 3

11. 平成 29 年度第 3 回環境審議会

- ・ 出欠席者の報告 出席 10 名、欠席 2 名、定足数に達しており会議は成立

(1) (議題①) 平成 29 年度第 2 回環境審議会会議録の確認について（資料 1）

【事務局】

- ・ この資料は、前回、平成 29 年 12 月 1 日に開催された平成 29 年度第 2 回環境審議会の審議内容について要点筆記したもので、前回会議終了後に、メールをお送りし、各委員からの指摘事項を反映したものである。会議録の作成が遅くなり申し訳ないが、修正等があれば、2月9日までにご指摘いただきたい。指摘を反映して会議録として決定し、発言者の名前を伏して公開する。

【会長】

- ・ 指摘があれば事務局まで連絡すること。

(2) (議題②) 東久留米市第二次緑の基本計画中間見直しについて（資料 2、2-1、2-2）

【会長】

- ・ 第二次緑の基本計画中間見直しについて市から諮問を受けて、検討部会を設置し検討していくものとしている。
- ・ 検討部会には、私と水戸部職務代理が出席している。
- ・ 前回 12 月 1 日以降、2 回の検討部会を開催して検討を行った。その状況を報告するとともに、皆さまの意見を頂き、今後の検討につなげる。
- ・ 検討部会での検討状況について事務局から説明をお願いする。

【事務局】

- ・ 前回審議会以降に、審議会でもいただいた意見を検討して、その結果を素案に反映した上で、12 月 18 日～1 月 12 日の期間にパブリックコメントを実施した。
- ・ パブリックコメントの内容を検討部会において検討し、素案に反映しているもの、していないものを整理して記載している。
- ・ 検討部会では並行して、市民による観察や、市民団体や市で調査を行うこと

のできる生きものの代表種の選定、計画書の細部についての検討を行っており、コラムや資料編としてまとめている。

- ・また、本日の会議での意見を踏まえて市長への答申としたいと考えている。修正等を行った場合には、事務局において承り市長へ報告する。
- ・【資料 2-1】（緑の基本計画パブリックコメント意見と対応（案））について概要を説明する。
- ・近隣市町村との連携を求める意見を参考に、施策 4 5 に具体的な取り組みを盛り込んだ。
- ・「将来像に具体的な生物多様性への取り組みを盛り込んでほしい」との意見があったが、水や緑の保全が一番の方策であるとの考えから、素案のとおりとしている。
- ・「元号を西暦で統一すべき」との意見については、和暦西暦を併記した上で、目次に読み替えの注釈を記載することで対応した。
- ・生物多様性地域戦略の策定の意義や外来種問題、2020 年問題についての説明を、コラムや関連基礎用語解説に記載した。
- ・「野生動物への餌やり禁止の啓発」を求める意見を参考に、新たな施策と個別目標を追加して、取り組みを具体化した。
- ・「生きものの生息環境の質の向上」を求める意見があったが、公園ストックの必要性もあることから、5 年後の計画改定時の大きな課題と考えている。
- ・「生物多様性に配慮した工法」を求める意見については、自然環境への影響低減措置等を施策 9 に盛り込んでおり、今後も提案を続けていく旨を回答している。
- ・園芸植物の投機と併せて、残土の投機も禁止する旨を施策 2 9 に追記した。
- ・「市の魚」は「シンボル」ではなく「象徴」という記載に修正した。
- ・「市民が手軽に手に取れるガイドブックがあるとよい」、「Twitter などのアカウントで情報を発信するとよい」という意見を踏まえ、対応を検討している。
- ・「レイアウトが単調で読みづらい」という指摘があり、レイアウトの工夫を進めている。
- ・【資料 2】に基づき、計画書の資料・コラム項目箇所について概要を説明する。
- ・各所にコラムを配置し、写真を挿入した。最終的なレイアウトについては、今後検討する。
- ・水と緑と生きものの現況図は、前回審議会での指摘を踏まえて分かりやすく修正した。
- ・p36 「9. 施策の内容」以降はパブリックコメントの内容を反映している。
- ・p58 「1 1. 重点施策（4）生きものの保全のための施策の充実」では、企業の保全活動の写真を加えたいと考えている。

- ・ p90,91「資料6 生きものモニタリングについて」では、観察種と代表種をそれぞれ4つの環境に区分して整理している。
- ・ p122「資料10 関連基礎用語解説」では、本文に記載のある用語以外にも掲載している。今後は、本文の対応するページ番号を追記していく。

【会長】

- ・ 只今説明のあった緑の基本計画の中間見直しについて、ご意見等あるか。

【委員】

- ・ p20,21「水と緑の将来像のイメージ」図において、落合川源流の拠点番号に誤植があるので修正すること。
- ・ p122「資料10 関連基礎用語解説」は、市内の生徒や学生が環境学習にも使うことを想定して作っている。計画について、一層の関心を持っている方は資料編を読むと考えられる。
- ・ 本編も資料編も現計画と比較してボリュームが増えたので、印刷時の工夫で読みやすくすること。

【会長】

- ・ p14 落合川最上流の写真はどこで撮影したのか。

【事務局】

- ・ 小金井街道よりも西側の上流部である。

【事務局】

- ・ p38 白山調整池の写真は「冠水時」のものなので、注釈等で追記する。
- ・ 白山調整池の冠水はめったに起こらないが、計画上には珍しい状況を残しておくべきとの意見があり、敢えて冠水時の写真を掲載したものである。指摘のとおり注釈等で追記する。

【委員】

- ・ p46「施策29 外来種対策の推進」について、パブコメの意見を踏まえて、ワカケホンセイインコ等の記載を加えること
- ・ p90-92「資料6 生きものモニタリング」について、モニタリングの開始時期などの具体的な記載はできないのか

【事務局】

- ・ 具体的な取り組みについては検討中である。

【委員】

- ・観察種の調査はこれまでどおり市民が毎年実施する。代表種は市民団体等が毎年調査するものと、次回の見直しに合わせて5年後に実施するものに大きく分かれる。

【会長】

- ・現在は各団体が個々に活動しているが、組織的に取り組もうという動きも出てきており、検討部会をとおして検討が進められている。

【事務局】

- ・今はバラバラの調査を、まとめていこう、という方針を示している。

【委員】

- ・p63「■個別項目毎の点検評価項目」として生きもののモニタリング結果が位置づけられたので、環境審議会でも毎年、結果を確認していくことになる。

【委員】

- ・各コラムの記載について、てにをは、を確認すること。
- ・p6「4 水と緑と生きものの現況」において、「水辺（川沿い）、水辺（湧水地）」という表現を「川沿いや湧水地などの水辺」と改めること。

【事務局】

- ・ご指摘のとおり修正する。

【委員】

- ・コラムと本文との違いが分かりづらく読みにくい。区別を明確にできないか。

【会長】

- ・コラムと本文で字体を変えるとよいだろう。

【事務局】

- ・検討する。

【委員】

- ・p6「4 水と緑と生きものの現況」において、下図の「東久留米市」の表示は不要。また、市境を太く表示すること。

【委員】

- ・p90-92「生きものモニタリング」の対象種について、それぞれ写真付きで整理されていると市民の理解を助けるだろう。清瀬市などは図鑑があるようだ。

【事務局】

- ・別途検討しているガイドマップやホームページと併せて、対応について検討する。

【委員】

・ガイドマップは怎么样了か。

【事務局】

・検討を中断している。マップに掲載する種を貴重種とするのか、市民になじみのある種にするのか、など、論点が多く、議論が終わっていない。

【委員】

・写真付きの一覧表があると学習にも役立ち、市民も自然に興味をもつようになるだろう。

【会長】

・小冊子、ガイドマップ、ホームページなど、にそれらの機能が期待できるのではないか。

【委員】

・狛江市では「水辺の楽校」があり、「多摩川生きもの図鑑」の小冊子を作り、イベントの際に子どもたちに配布し、子どもたちが喜んでいる。

【事務局】

・誰がつくるのが、分担が難しい。

【会長】

・各市民団体の方が委員として検討に参加したことで、ここまでまとめることができた。画期的であり、これをステップとして次につなげたい。

【委員】

・p91「2 モニタリングの対象種と選定根拠」中、ナミアゲハが重複しているので削除すること。

【委員】

・p91,92 表の順番をアイウエオ順、または種類別にしてはどうか

【委員】

・p92の「2 モニタリングの対象種と選定根拠」表記は、最終的に確認して整理してください。

【会長】

・資料10の用語と、本文の掲載ページとの対応を確認すること。

【委員】

・図表の様式を整えること。

【委員】

- ・ p58「企業の取り組み」について、コカコーラ社の取り組みについて、よい写真がないか確認してみる。

【会長】

- ・ 植樹をされた際の写真などがあるとよい。市民・行政・事業者の3者の繋がりを示す写真があるとよい。

【会長】

- ・ ただいまの意見は事務局において、市長への報告に加えること。本日の答申は現案で行うが、細部の確認や修正は続け、修正後の内容をもって計画を確定とする。

(3) その他（東久留米市第三次地球温暖化対策実行計画事務事業編（案）について）

【会長】

- ・ その他として、環境政策課から報告をお願いする

【事務局】

- ・ 【資料 3】 東久留米市第三次地球温暖化対策実行計画事務事業編を策定するものとして、素案をもとに検討している。計画においては、パリ協定における日本の約束草案や国の計画を踏まえ、公共施設において 2030 年までに 40% の削減を目標にしている。ご意見をいただき、庁内での決定に際して検討させて欲しい。

【会長】

- ・ 説明のあった地球温暖化対策実行計画事務事業編の中間見直しについて、意見はあるか。

【委員】

- ・ p22「②公用車の適正な仕様」に記載されている「長時間のアイドリング」という文言は不適切なので修正すること
- ・ p1 100 行目の「締結」という言葉は、「採択」のほうが適切ではないか。

【委員】

- ・ CO₂ 削減のためには、お金はかかるが、常に電力のモニタリングが必要と理解した。例えば、p11 に電力使用量の経年変化のグラフが示されているが、変

動の要因を具体的に考察できるとよい。

【委員】

- ・電力の地産地消のための自然エネルギーの導入も選択肢としてはあるのではないか。
- ・また、p12「②原油換算エネルギー使用量上位 10 施設の温室効果ガス排出量等」でスポーツセンターと市庁舎が抜き出て高い値を占めているが、これらの削減が重要課題になるであろう。

【事務局】

- ・主要な施設では設備の更新を行っており、スポーツセンターや市庁舎も照明などに比較的新しい設備を導入している。よって、空調については、更新の見込みが薄い照明の更新などは考えられる。

【委員】

- ・耐用年数が過ぎた設備については、交換することや制御を改善することで、費用はかかるが、省エネ化を実現できる。

【事務局】

- ・空調には 15～20 年の耐用年数であると聞いている。冷媒の交換について、エネルギー診断した結果、そこまで交換による効果もないという結果もある。

【委員】

- ・冷媒ではなく、機器や設備そのものを交換することが省エネにつながる。機器の効率を上げることが低炭素化のポイントであるもとを記載すべき。

(4) 閉会

【会長】

- ・これで本日の議題はすべて終了した。これをもって、平成 29 年度第 3 回の環境審議会を終了する。

(5) 市長への答申

【会長】

- ・計画の中間見直しにあたっては、地元の自然団体のメンバーが入って議論を行い。内容の充実につながった。
- ・環境教育にも使える内容となっている。
- ・あたりまえのように感じている自然は、昔から守り、育まれてきたものであるということを示している。
- ・生きものの要素を計画に含めることで、市民の意識向上につなげたいと考えている。

【市長】

- ・ 中間見直しをしていただき感謝する
- ・ 一年半、時間をかけて会長を始めとして委員の皆様にしつかりと議論いただいたことがよくわかった。会長の説明からも熱い想いが伝わってきた。
- ・ 生きものを守る上で、重みのある、大切な答申であると感じている。
- ・ 東久留米は大昔から環境を守ってきたことには大変な重みを感じる。暮らし始めて数十年の私たちが、過去から続く自然を壊すことのないようにして、次の世代につなげていきたいと考える。

以 上